



三位一体でより良い教育環境の構築を目指す

霧島高等学校

本校は、栗野工業高校と牧園高校を発展的に統合し、平成20年4月に開校しました。機械科と総合学科が設置され、機械科は工業技術を身に付けるとともに、ものづくりで地域貢献を目指しています。総合学科は人文芸術系列（進学、音楽・美術コース）、観光マネジメント系列、生活科学系列の三系列から構成され、多様な進路を実現するとともに、おもてなし活動で地域貢献を目指しています。校訓の『自律・敬愛・明哲』、スクールモットーの『磨こう個性 拓こう未来を!!』のもと、小規模校の利点を生かした少数・個別指導の重視と、地域との連携を大切にした教育活動を展開しています。

P・T・Aも本校の教育方針に沿った活動を行っており、校外指導や、文化祭でのイベントの協力等に取り組んでいます。昨年度の文化祭ではキッチンカーを手配し、大盛況でした。

また、より



令和6年度懇談会の様子

時代に合った規定の見直しについて議論を重ねています

良い教育環境を目指し、一年一回、P・T・A評議員会の際に生徒を交えて懇談会を実施しています。校則に関することや施設に關すること、行事についてなど、多岐にわたる内容について意見交換をしています。令和2年度のこの会で「女子制服のスラックススタイルを導入してほしい」という意見が出されました。年度途中で制服デザイン変更は難しい点も多くありましたが、業者の協力もいただき、県内の公立高校ではいち早く、女子制服のスラックススタイルを導入することができました。その他、リユック型通学カバンの導入や服装規定の見直しなど、懇談会をきっかけに変わってきたものも多く、より良い学校づくりに繋がっていると感じています。現在、多様性を認め合う時代に見合った頭髮規定の見直しについて継続的に話し合いを重ねています。

小規模校ならではの生徒・保護者・職員との距離の近さを生かした取組を行うことが、本校ではより大事であると考えます。これからも三位一体で創意工夫を重ね、より良い教育環境の構築を目指します。

（実習助手 飯山 清文）